

受験番号	
------	--

※答えはすべて解答用紙に書きなさい。 ※選んで答える問題は記号で答えなさい。
 ※特にことわりのないかぎり、句読点やかきかっちはすべて字数にふくみます。
 ※設問の都合上、本文に一部省略があります。

一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

*プロトケの最後で「できるだけ『完全なタンポポ』を思い描いてみてください」と書きました。

みなさん、実際にイメージは膨らみましたか？

読み飛ばしてしまった人は、いまから秒でけっこうですので、「タンポポを心のなかで想像してみてください。

さて、いかがでしょうか？

【 a 】「地面から顔を出した鮮やかな黄色の花」を思い浮かべた人がほとんどではないかと思います。

しかし【 b 】それはタンポポのほんの一部にすぎません。

もう少し想像を膨らませて、地面のなかを覗いてみましょう。

地中には、タンポポの根が伸びています。それは、まるでゴボウのように真っ直ぐで太く、目を疑うほど長く続いています。ものによつては、【 c 】1メートルに及ぶことすらあるのだとか……。

もうちょっと別の角度でも見てみましょう。

タンポポが花を咲かせている期間は、1年間のうちどれくらいなのかを存知ですか？

いつでも遠端に咲いているような印象もありますが、1つの花が姿を見せるのは、1年のうちなんと「たった1週間程度」です。

春先に短い開花時期を終えたタンポポは、すぐに一度ぼんで、約1カ月後、綿糸に変身を遂げます。春の終わりに綿糸を飛ばし終えると、夏には根だけになって、地上からは【 d 】姿を消してしまうのです。秋が来ると葉だけを地上に出し、そのまま冬を越します。

そう、あなたが思い浮かべた「黄色い花を咲かせたタンポポ」は、さまざまに姿を変える大きな植物の「ほんの一部・一瞬を切り取ったもの」でしかありません。

空間的にも時間的にも、²タンポポという植物の大半を占めているのは、じつは目には見えていない「地下」の部分なのです。

³「アート」というのは、このタンポポに似ています。そこで、アートを「植物」にたとえてみたいと思います。少々長めのたとえ話になりますが、どうぞおつき合ってください。

「アートという植物」は、タンポポのそれとも違う、不思議な形をしています。

まず、地表部分には花が咲いています。これはアートの「作品」にあたります。

この花の色や形には、規則性や共通項がなく、じつに多様です。大ぶりで奇抜なものもあれば、小さくて自立できないものもあります。

しかし、どの花にも共通しているのは、まるで朝露に濡れているかのように、生き生きと光り輝いていることです。

本書ではこの花を「表現の花」と呼ぶことにしましょう。

この植物の根元には、大きな丸いタネがあります。拳ほどの大きさで、7色が入り混じった不思議な色をしています。

このタネのなかには、「興味」や「好奇心」「疑問」が詰まっています。

アート活動の源となるこのタネは、「興味のタネ」と呼びたいと思います。

さて、この「興味のタネ」からは無数の根が生えています。⁴ 方方に向かって伸びる巨大な根は⁵圧巻です。

複雑に絡み合い結合しながら、なんの脈絡もなく広がっているように見えますが、じつのところ、これらは地中深くで1つにつながっています。

これが⁶「探究の根」です。この根は、アート作品が生み出されるまでの長い探究の過程を示しています。

「アートという植物」は、「表現の花」「興味のタネ」「探究の根」の3つからできています。

しかし、タンポポのとく同様、空間的にも時間的にもこの植物の大部分を占めるのは、目に見える「表現の花」ではなく、地表に顔を出さない「探究の根」の部分です。

アートにとって本質的なのは、作品が生み出されるまでの過程のほうなのです。

したがって、「美術」の授業で依然として行われている「絵を描く」「ものをつくる」「作品の知識を得る」という教育は、アートという植物のごく一部である「花」にしか焦点をあてていないことになります。

美術館などでアート作品を見ても、「よくわからない」「きれい」「すごい」としかいえない。「どこかで見聞きしたウンチクを語る」

令和八年度 帝塚山中学校 一次B入学試験問題・国語 (その二)

としかできない」という悔みを耳にしますが、それは、7 日本の教育が「探究の根」を伸ばすことをないがしろにしてきたからなのかもしれない。

どんなに上手に絵が描けたとしても、どんなに手先が器用で精巧な作品がつくれても、どんなに斬新なデザインを生み出すことができて、それもあくまで「花」の話です。「根」がなければ、「花」はすぐに萎れてしまいます。作品だけでは、本当の意味でのアートとは呼べないのです。

「アートという植物」の生態を、もう少しよく見てみましょう。

この植物が養分にするのは、自分自身の内部に眠る興味や、個人的な好奇心、疑問です。

アートという植物はこの「興味のタネ」からすべてがはじまります。ここから根が出てくるまでは、何日も、何カ月も、時には何年もかかることがあります。

このタネから生える「探究の根」は、決して一本とはかぎりませんし、好奇心の強くま好き勝手に伸びていきます。それぞれの根は、太さも、長さも、進む方向さえも違い、くねくねと不規則に波打ち、混沌としています。

「探究の根」はタネから送られる養分に身を委ね、長い時間をかけて地面のなかを伸びていきます。

アート活動を突き動かすのは、あくまでも「自分自身」なのです。他人が定めたゴールに向かって進むわけではありません。

「アートという植物」が地下世界でじつくりとその根を伸ばしているあいだ、「地上」ではほかの人たちが次々ときれいな花を咲かせていきます。なかには人々をあつといわせるようなユニークな花や、誰もが称賛する見事な花もあります。

しかし、「アートという植物」は、地上の流行・批評・環境変化などをまったく気にかけません。それらとは無関係のところで「地下世界の冒険」に夢中になっています。

不思議なことに、なんの脈絡もなく生えていた根たちは、あるときどこかで1つにつながります。それはまるで事前に計画されていたかのようです。

そして、根がつながった瞬間、誰も予期していなかったようなタイミングで、突然「表現の花」が開花します。大きさも色も形もさまざまですが、地上にいるどの人がつくった花よりも、堂々と輝いています。

これが「アートという植物」の生態です。

この植物を育てることに「生を費やす人こそが「真のアーティスト」」なのです。

とはいえアーティストは、花を咲かせることには、そんなに興味を持っていません。

むしろ、根があちこちに伸びていく様子が夢中になり、その過程を楽しんでいます。

アートという植物にとって、花は単なる でしかないことを知っているからです。

あと少しだけ、たとえ話を続けます。

世の中にはアーティストとして生きる人がいる一方、タネや根のない花だけをつくる人たちもいます。本書では彼らを「花職人」と呼ぶことにしましょう。

花職人がアーティストと決定的に違うのは、気づかないうちに「他人が定めたゴール」に向かって手を動かしているという点です。

彼らは、先人が生み出した花づくりの技術や花の知識を得るために、長い期間にわたって訓練を受けます。学校を卒業するとそれらを改善・改良し、再生産するために勤勉に働きはじめます。

花職人のなかには、立派な花をつくり上げたことで、高い評価を受ける人もいます。

しかし、どんなに精巧な花であっても、8 まるで細工のようにどこか生氣が感じられません。

たとえ花職人として成功を取っても、似たような花をより早く、精密につくり出す別の花職人が現れるのは時間の問題です。そうなるとき、既存の花づくりの知識・技術しか持たない彼らには、打つ がありません。

とはいえ、誰もが最初から花職人になることを志しているわけではありません。一度は自分の「興味のタネ」から「探究の根」を伸ばそうと踏み出したものの、道半ばで花職人に転向する人も多くいます。

なぜなら、根を伸ばすには相当な時間と労力がかかるからです。「これをやっておけば花が咲く」という確証もありません。その間、周囲の花職人たちは美しい花をどんどん咲かせ、地上でそれなりの成功を取っていきます。9 ほとんどの人は、途中まで伸ばしかけた根を諦めて、花職人になる道を選びます。

10 「アーティスト」と「花職人」は、花を生み出しているという点で、外見的にはよく似ていますが、本質的にはまったく異なっています。

「興味のタネ」を自分のなかに見つけ、「探究の根」をじつくりと伸ばし、あるときに独自の「表現の花」を咲かせる人——それが真正銘のアーティストです。

粘り強く根を伸ばして花を咲かせた人は、いつしか季節が変わって一度地上から姿を消すことになっても、何度でも新しい「表現の

令和八年度 帝塚山中学校 一次B 入学試験問題・国語 (その三)

花」を咲かせることができます。

(永幸歩『自分だけの答え』が見つかる 13歳からのアート思考』より)

※プロローグ…この本文より前に書かれていた序章のことを指す。

1 —— 1 「タンポポを心のなかで想像してみてください」とありますが、筆者は何のためにこのようなことを言うのですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 読者が正確にタンポポを思い浮かべられるかを試すことで、アーティストと一般人の物を観察する目の違いを説明するため。
- イ 読者にとって身近な草花であるタンポポを思い起こさせることで、アートを特別視せず身近なものとして考えてもらうため。
- ウ 読者に冬の寒さに耐えて花を咲かせるタンポポを想像させ、アートもまた厳しい修行の末に花開くものだと知ってもらうため。
- エ 読者に不完全なタンポポしか思い描けない体験をさせ、アートについても表面上しかとらえられていないことに気付かせるため。

2 【 a 】と【 d 】に入る語として最も適するものを、それぞれ次の中から選んで答えなさい。ただし、同じ記号は二度使えません。

- ア すっかり イ じつは ウ きつと エ なんと

3 —— 2 「タンポポという植物の大半を占めているのは、じつは目には見えていない『地下』の部分なのです」とありますが、どういうことを言っているのですか。それを説明した次の文の空らん条件に合うように、本文からそれぞれぬき出して答えなさい。

タンポポを思い浮かべるとき、人はつい（Ⅰ 九字）タンポポの姿を思い浮かべがちだが、実際は（Ⅱ 二字）的な「地下」には、タンポポが根を伸ばしている。また（Ⅲ 二字）的な「地下」には花が開花する（Ⅳ 八字）の期間を除いた四季折々のタンポポの姿がある。それらを含めてこそ真のタンポポの姿なのだということ。

4 —— 3 「『アート』というのは、このタンポポに似ています」とありますが、どのような点が似ているのですか。最も適するものを、次の中から一つ選んで答えなさい。

- ア 季節にたとえられる時代の変化に応じて様々な姿を変ええる点。
- イ 根にたとえられる表面には現れ出ない部分こそが重要である点。
- ウ 花にたとえられる作品の個性を打ち出さなければならぬ点。
- エ タネにたとえられるアイディアの良し悪しが作品の出来を決める点。

5 —— 4 「□方□方」とありますが、「あちらこちら」という意味になるように空らんに適する漢数字をそれぞれ答えなさい。

6 —— 5 「庄巻」の意味として最も適するものを、次の中から一つ選んで答えなさい。

- ア 多くの中でも特にすぐれていること。
- イ 他をねじふせるほど強力であること。
- ウ 非常に複雑で簡単には分からないこと。
- エ 驚いて言葉を失うほど風変わりなこと。

7 —— 6 「『探究の根』」とありますが、これはどのようなものですか。最も適するものを、次の中から一つ選んで答えなさい。

- ア アーティストの興味や好奇心にしたがって自由自在に伸びながら、いつか他人の心をついていくもの。
- イ アーティストがねらい定めた一つの興味関心に向けてひたすら伸び、誰にもまねのできない作品を作り出すもの。
- ウ 一見何のつながりもなく好き勝手に広がっているが、それらがつながりあったときに作品を生み出すもの。
- エ 長い時間をかけて人の目につかない地下深くを進みながらも、いずれ必ずすぐれた作品へと生まれ変わるもの。

令和八年度 帝塚山中学校 一次B入学試験問題・国語 (その四)

8 —— 7 「日本の教育」とありますが、筆者は日本の美術教育に対してどのように考えているのですか。最も適するものを、次の中から一つ選んで答えなさい。

- ア 自ら創造することのすばらしさを教えず、知識に基づいて作品の良し悪しを語ることはかりに注力している。
- イ 「きれい」な作品を生み出すことにはかりとらわれて、結局どこかで見たような作品ばかりを描かせている。
- ウ 独自の視点で作品を味わう力を育てられず、学校で習った知識ばかりを垂れ流す人材を育ててしまっている。
- エ できあがった作品にばかり注目がちで、それを生み出す源になる興味や好奇心を育てることを軽んじている。

9 に入る語として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 結論 イ 結晶 ウ 結果 エ 結東

10 —— 8 「まるで蠟細工のようにどこか生気が感じられません」とありますが、どういうことですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア いきいきとした生命力や、作者自身の意志が感じられないということ。
- イ いかにも作り物という感じがして、作品が不自然に感じられるということ。
- ウ 表面的には美しく仕上がっているが、全く実体の無いものだということ。
- エ 良くできすぎているせいで、実在しないように見えてしまうということ。

11 に当てはまる体の一部を表す漢字一字を答えなさい。

12 —— 9 「ほとんどの人は、途中まで伸ばしかけた根を諦めて、花職人になる道を選びます」とありますが、それはなぜですか。次の空さんの条件に合うように、五十五字以内で答えなさい。

探究の根を伸ばすには、

13 —— 10 『アーティスト』と『花職人』は、…本質的にはまったく異なっています」とありますが、どのように違うのですか。それを説明した次の文の空さんの条件に合うように、本文からそれぞれぬき出して答えなさい。なお、(い)・(う)の解答の順序は問いません。

「アーティスト」は自らの「興味のタネ」に基づいて「探究の根」を伸ばすことに夢中になったために、(あ 二字)の「表現の花」を咲かせる。一方「花職人」は、既存の花作りの(い 二字)や(う 二字)によって過去の作品を改善・改良して(え 三字)を行うが、結局は(お 九字)に向かって作品作りをしているだけである。

二 次の記事を読んで、後の問いに答えなさい。

東京に住む十和は母のすすめで中学受験をすることにした。母の再婚相手であるヨシくんは受験経験があったことから、つきっきりで十和の受験を支えた。以下は、第一志望である大阪の星蘭中学校の合格が決まったあともなお、より偏差値の高い東京の啓愛中学校を受験し、その合格発表を迎えた場面である。

スマホには〈21時29分〉と表示されている。同じ学校を受けた十和と寛乃はもちろん、野口も、美香子も、偶然にもみな今日の発表は二十時だと聞いている。

家族はみんな¹思い思いに過ごしていたが、発表まで二十分を切った頃から、そんな取り決めであったかのように、一人、また一人とリビングに集まってきた。

「前回もこうして合格してたからね」

²例によって、花茶が空気を作ろうとしてくれるが、やはり と発表が近づくとつれ、緊張感が充ちていった。最後に母が洗い物を終え、席に着いたときにはもう誰も口を開こうとしなかった。

³じりじりとした重い空気に全身が汗ばむ。同じように身体が火照るのだろうか。母はもう遠慮する必要はないとばかりに半そでになっている。

令和八年度 帝塚山中学校 一次B入学試験問題・国語 (その五)

誰かが深いため息をこぼすと、釣られるように他の誰かが息を吐いた。星蘭のときにも感じたことだが、発表直前の時間はとにかく長く感じる。いつもと同じ時間の流れであるのを疑いたくなるほど、一秒一秒がしつかりと時を刻んでいく。

二十時まで、あと十分。

家族のため息の輪唱を、母が4 不意に断ち切った。

「いまのうちに言っておく。今日までホントにおつかれさま。この結果がどうであれ、あなたはよくがんばった。自慢の娘だよ」

ふと、集中力が解かれる。5 直前までモノクロだった世界に色が伴ったようだった。自分しかいなかった部屋に、突然みんなが現れたかのような錯覚を抱く。

十和は突然と母の目を見返した。

「何？ どうかした？」

6 怪訝そうにする母の目が赤く潤んでいる。それを見て、このタイミングで「仮説」は正しいのだと確信した。

家族の視線を一身に浴びながら、十和は小さく首をひねった。

「じゃあ、私も先に言っておく。お母さん、今日までありがとう」

星蘭の受験が終わったときも、そのあとも、父と花奈には何度となくお礼を言った。母にもちゃんと伝えただろうか。その記憶がいまいだ。

母は7 面食らったように仰け反り、意味がわからないというふうに肩を上げた。

「だから、なんで私なの？ 私は何もしていないって」

「その『してない』をしてくれた」

「はあ？ どういう意味？」

母はムキになったように言い返してきたが、8 その態度で十和は確信を深める。やっぱり母の計算だったのだ。

ゆっくりと視線を向けた父は、ポカンと口を開けて二人のやり取りを見つめている。どうやら父もまた何も聞かされていないようだ。

なぜか9 胸がすく思いがした。

つまりは十和も父も母の手のひらの上で蹴らされていたということだ。

十和は笑うのを堪えることができなくなった。

「ずっとおかしいと思ってたんだ。いきなり受験をしろって言い出したことも、そのくせ成績のことも志望校も全然気にしないことも、おばあちゃんを見てたらわかる。本当はお母さんだってあれこれ口出したかっただけなのに」

B 謎解きをやる探偵のような十和の口調に、嘩然とした顔が二つ並んだ。父と、花奈。母は一人慥然とした表情を浮かべている。

十和はかまわずまくし立てた。

「こんなふうになるって最初から想像してたの？」

空気がさらに冷たくなる。きこく答えることはないのだろうと思っていた。何それ、知らないよ、私は何も関係ないと、しらばっくれるのだろうと思っていた。

案の定、母は難しそうな顔をしたまま、十和を睨むように見つめていた。それでも、やはり思うことはあったのだろう。

10 最後は罪を告白する犯罪者のように、大きく全身で息を吐いた。

「想像をはるかに超えてたよ」

そう静かに切り出して、母は淡々と語り始めた。

11 十和とヨシくんのことはずがにどうしたものかと思つてたからね。時間が解決すると思つてキャンプとか企画してみたけど、あなたはどんどん思春期に突入していくし、ヨシくんはヨシくんですますます距離感をつかみあくねてるようだったし。十和を中学受験させてみようというのは、わりと前から温めていたアイデアだった」

「どうして受験？」

「敵同士に手を組ませるには、共通するさらなる大きな敵を作るというのが**C**なの。ともに乗り越えなきゃならない高い壁を作るのが何よりも手取り早い。そこに二人を擁護するなら、自分がうかつに口を挟むべきじゃないということも確信していた。ずっとイライラしてたんだけどね。十和もそうだけど、ヨシくんもなかなかソーンに入ってくれないから。ずっとイライラしながら二人を見てた」

自分で言つて、ふふと笑い、母は気を取り直すように首をひねった。

「でも、この半年は本当にすごかったよ。私の口出しするところなんて一つもなかった。12 毎日毎日家族が更新されていくようだった。」

令和八年度 帝塚山中学校 一次B 入学試験問題・国語 (その六)

昨日までの家族より今日の家族の方がずっといい。毎日のようにそう思ってた」

そうきつぱりと言いついて、母はみんなに向けて頭を下げた。

「ありがとうね、二人とも。花奈も。私をこの家族の一員でいさせてくれて、本当にありがとう」

時刻はそろそろ二十二時になろうとしている。

母の言葉に胸が熱くなったわけではない。星蘭の合格を勝ち取り、それでも啓愛を受けると決めたときからずっと心に秘めていた。

それでも母の言葉に背中を押され、ようやく踏ん切りがつけられた。

十和は誰にともなうなずいた。

「もしこれで落ちてたら、私は胸を張って星蘭に行く」

部屋がしんと静まり返る。父が怪訝そうに¹³眉をひそめた。

「何それ。受かってたら？」

「啓愛に行く」

「いやいや、十和ちゃん。それは——」という父のしどろもどろな声を、母がびしゃりと遮った。

「後悔しない？」

「それはわからない」

「¹⁴だったら、私は反対」

「うん。たぶんそういう意味じゃない。たぶん、どちらにしても後悔するんじゃないと思う。啓愛に行っても星蘭が心残りになるだろうし、星蘭に行ったらみんなともう過ごせないことを悔やむ気がする」

「みんなって？」

「そんなの、ここにいるみんなに決まってるじゃん」

何をバカなことを……と、十和は思いきり嘔き出した。

そろって呆けた顔をする花奈と父を順に見つめ、あらためて母に視線を向ける。

「どちらにしたって、これは私が決めたことだから。¹⁵後悔したとしても、悔いはない。どちらにしても死にはしない」

「はあ？」

「お母さんの口グセでしょ？ 死ななきゃいいんだよ。いまは私もそう思う。でも、啓愛に行くとしても一つだけ条件がある。それをみんなにのんでほしい——」

十和がそこまで言ったとき、スマホが久しぶりに音を立てた。画面に野口の名前が表示されている。

映し出された文面を見て、¹⁶目頭が一瞬で熱くなった。

すでに 時を回っていた。

十和はあわてて目もとを拭い、笑顔をみんなを振り返った。

「ごめん。押しね」

本当に今日までありがとう——。

そう心の中でささやきながら、十和は軽やかにタッチパッドに手を置いた。

(早見和真『問題』以下の文章を読んで、家族の幸せの形を答えなさい)より)

※花奈：十和の妹。

1 ——— 1 「思い思いに」の意味として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- A 特定の目的のもとで自分の欲望に沿って好き勝手にふるまっている様子。
- I 周囲の様子をうかがいながらそれぞれが別々に行動している様子。
- ウ おのおのが自分の考えや気持ちに従って自由に過ごしている様子。
- E それぞれの気持ちを考えながらほらほらに時間をつぶしている様子。

令和八年度 帝塚山中学校 一次B入学試験問題・国語 (その七)

2 ——— 2 「例によって花奈が空気を作ろうとしてくれる」とありますが、どういうことですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 花奈が緊張を和らげようと、いつもと同じように空気を明るくしようと努めたということ。
- イ 花奈が息苦しい空気を癒えようと、無理をして前向きな言葉を選んで話をしたということ。
- ウ 花奈が家族に合格を確信させるような話題を持ち出し、自信を持たせようとしたということ。
- エ 花奈があえて家族に会話をさせるため、話題の一例として前回の合格について触れたということ。

3 A には「次第に時間が経過すること」という意味を持つ □ という漢字三字の語句が入ります (□には同じ漢字が入ります)。□に当てはまる漢字一字を本文からぬき出して答えなさい。

4 ——— 3 「じりじりとした重い空気」とありますが、どのような様子を表していますか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 過度に集中したため肌が焼けるような不快感が広がっている様子。
- イ 合格を期待しながらも確信には至らない不安が部屋に満ちている様子。
- ウ 時が過ぎるのが遅く感じられるほど全員が一心に祈っている様子。
- エ 不安と期待が複雑に入り混じったような重圧感が漂っている様子。

5 ——— 4 「不意に」の言いかえとして最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 急速に イ 無意識に ウ 突然に エ おもむろに

6 ——— 5 「直前までモノクロだった世界に色が伴ったようだった。自分しかいなかった部屋に、突然みんなが現れたかのような錯覚を抱く」とありますが、十和のどのような様子が表れていますか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 極限までとぎすまされていた感覚がふとしたことで変化し、今までとは異なるもの見方ができた様子。
- イ 母の言葉によって合格発表に向けて張りつめていた気持ちがゆるみ、周囲の様子を認識する余裕ができた様子。
- ウ 不合格ならどうしようと気が沈んでいたものの、母の予想外の発言によって前向きにとらえられるようになった様子。
- エ 家族が周囲にいるという意識や色の感覚が失われていたことを、母の言葉によって気づかされた様子。

7 ——— 6 「怪訝」の意味として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 不思議に思うこと イ 予想外で驚くこと ウ 裏切られ失望すること エ ゆっくりと聞き返すこと

8 ——— 7 「面食らったように仰け反り」とありますが、母のどのような気持ちが表れていますか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 受験をすすめた目的に十和が気づいてしまったことをとても残念に思う気持ち。
- イ 十和からの感謝を受け止めたくて、その発言の意図を探ってみようという気持ち。
- ウ 受験に関与していないのに十和が感謝を伝えてきたことが予想外で驚く気持ち。
- エ 十和が感謝の言葉を述べるといふ今までなかったことにびっくりする気持ち。

9 ——— 8 「その態度で十和は確信を深める」とありますが、十和はどのようなことを確信したのですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 中学受験は母が計画的に私に提案したもので、あえて口出しをせずに見守っていたのだということ。
- イ 父との距離の縮め方に悩んでいた私を見かねた母が、あえて星蘭の受験を私にすすめたのだということ。
- ウ 母が受験中に何も手伝わなかったのは、意図的なものではなくただ知識がなかっただけということ。
- エ 母は中学受験を通じて父の優秀さを私が理解すればよいと思い、あえて無関心でいたのだということ。

令和八年度 帝塚山中学校 一次B入学試験問題・国語 (その八)

- 10 ——— 9 「胸がすく思いがした」とありますが、どういうことですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。
- ア 私だけでなく父も母の意図をなにも知らず受験に向かっていたことが分かり、仲間意識が芽生えたということ。
 - イ 私だけでなく父も母から相談されていなかったことを知り、胸に穴が開いたようなさみしさを覚えたということ。
 - ウ 私だけでなく父も聞かされていなかった母のたくらみに気づくことができたので、すっきりしたということ。
 - エ 私だけでなく父も母との関係が良くなかったことを知り、不思議と晴れ晴れとした気持ちになったということ。
- 11 に入る語をひらがな三字で答えなさい。
- 12 ——— 10 「最後は罪を告白する犯罪者のように、大きく全身で息を吐いた」とありますが、母のどのような気持ちが表れていますか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。
- ア これ以上かくし通せないことを理解し、あきらめてすべてを告白しようと覚悟を決めている気持ち。
 - イ 子どもをだましていたことで実際に罪を犯してしまったかのような大きな罪悪感を抱いている気持ち。
 - ウ 自分の計画が上手くいったことへの満足感をさとりられないように冗談めかしてみせようという気持ち。
 - エ 子どもたちに責められる不安を抱きつつも、親としての義務感から説明責任を果たそうという気持ち。
- 13 ——— 11 「十和とヨシくんのことはずがにどうしたものかと思っただけだね」とありますが、十和と父の関係は母からどのように見えていましたか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。
- ア 十和は以前にもまして両親に冷たい態度をとるようになり、父は再婚相手の子どもである十和に対して厳しく注意する勇気が持てず親として指導ができないう。
 - イ 十和は成長していく中で父と親しくならうとはせず、父は再婚相手の子どもである十和とどのくらいの親しきで接すればよいか判断できず、関係の調整に迷っていた。
 - ウ 十和はだんだんと父に冷たい態度をとるようになり、父は再婚相手の子どもである十和がそのような態度をとることは当然として関係の改善をする様子にはなかった。
 - エ 十和は父を認めつつも叱すかしさからそれを伝えることができず、父は再婚相手の子どもである十和に気を使いすぎてお互い本音で話すことができていなかった。
- 14 には「物事を行う際に最も良いとされる決まった方法や手段」という意味を持つ「○石」という語句が入ります。○に当てはまる漢字二字を答えなさい。
- 15 ——— 12 「毎日毎日家族が更新されていくよだった」とありますが、どういうことですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。
- ア 家族で一つの目標に取り組んでいく中でとととん家族の絆が深まっていったということ。
 - イ 各自の目標に向けて努力するという考え方を家族全員で共有できるようになったということ。
 - ウ 今まで知らなかった家族の新たな一面が次々と見えてくるようになってきたということ。
 - エ 家族のあるべき姿が変わっていく中でそれぞれの存在を思いやれるようになったということ。
- 16 ——— 13 「眉をひそめた」とありますが、父はなぜ眉をひそめたのですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。
- ア 十和が志望順位の低い啓蒙を受験し、その中学校に落ちる心配をしていたから。
 - イ 十和が第一志望を星蘭にしたことに、まだ自信を持っていないから。
 - ウ 十和が急に、第一志望の星蘭に行くことはないと言いだしたから。
 - エ 十和が啓蒙に落ちることで、初めて星蘭へ進学を決めるような説明をしたから。

令和八年度 帝塚山中学校 一次B 入学試験問題・国語 (その九)

17 ——— 14「だったら、私は反対」とありますが、この発言から母のどのような考えがわかりますか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 後悔しない選択だと言い切れるまではその判断を支持することはできないという考え。
- イ 考えることを投げ出しているような答えをするので腹を立てその姿勢を正そうという考え。
- ウ 感情的に話している姿を見て冷静になるためにあえて考える時間を作ろうという考え。
- エ 苦しくとも大人が納得できるような答えが出るまでは考え続けてほしいという考え。

18 ——— 15「後悔したとしても、悔いはない」とありますが、どういうことですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 十和の中では後悔と悔いというものは全くの別ものにとらえているので、どこの学校に行くかは関係がないということ。
- イ どちらの学校に行くかは十分に悩み、周囲の意見も聞いたうえで決断したので何があっても受け入れられるということ。
- ウ 未知の環境というのは不安がつきものなので決断した以上後悔するようなことがあっても乗り切る覚悟があるということ。
- エ 星蘭と啓愛のどちらを選んでも後悔することには違いないが、自分で決めたことであれば納得できるということ。

19 ——— 16「目頭が一瞬で熱くなった」とありますが、それはなぜですか。最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 友人である野口の不合格を知りそのくやしさを想像するあまり泣き出しそうになったから。
- イ 野口からの合格を知らせる連絡を見てうれしさのあまり涙をこぼしそうになったから。
- ウ 野口の連絡を見て合格発表の時間を過ぎていることに気づき大きく目を見開いたから。
- エ 野口から不合格だったことを告げられたが信じられず何度もその文面を読み返したから。

20 D に入る語を本文からぬき出して答えなさい。

三 次の1～10の——部のカタカナを漢字に、11～15の——部の漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 暗やみに打ち上げられた花火は、強い光をハナった後に消えた。
- 2 あのカンバンを目印にまっすぐ行けば、右手に駅が見えてきます。
- 3 この商品は一度に大量に注文すると、ワリビキ価格が適用される。
- 4 正直者がソンをするなどということは絶対にあってはならない。
- 5 この土地のバイバイにからんで、巨額の資金が動いたとされる。
- 6 彼とはおさななじみで、たがいに心をコルした間がらだ。
- 7 美術品は直射日光をさけ、温度と湿度を一定にしてホカンされる。
- 8 海外の要人が、多くのゴエイに守られながら来日した。
- 9 何年にもわたって努力を続けてきた彼についてロウホウがとといた。
- 10 病気を防ぐためには、身の回りを常にセイケツにすることが重要である。
- 11 先人の努力を慇懃ぶ心を忘れず、感謝の念を持ち続けることが大切だ。
- 12 新しく勉強会を設けることで、多くの人が知識を共有できた。
- 13 桜の名所には観光客が群がり、にぎやかな雰囲気にもまれていた。
- 14 彼の功績は枚挙にいとまがなく、語り継がれるにふさわしい。
- 15 先生の説明は平易で理解しやすく、生徒たちの表情も明るかった。

令和8年度 帝塚山中学校
1次B入学試験問題・国語 解答用紙

受験番号

ここにシールを貼ってください



261210

11 6 1 二

ま	イ	ウ
る		
で	7	2
	ア	ア
12		
ア	8	3
	ウ	刻
13		
イ	9	4
	ア	エ
14		
定	10	5
石	ウ	ウ

13

お	あ	し	く	作	相
他	独	て	、	品	当
人	自	い	そ	を	な
が		く	の	生	時
定	い	か	間	み	間
め	技	ら	に	出	と
た	術	。。	周	せ	労
ゴ	う		囲	る	力
ール	知		の	と	が
	識		花	い	か
			職	う	か
	え		人	確	る
	再		が	証	う
	生		成	も	え
	産		功	な	、

12 8 4 3 1 一

探究の根を伸ばすには、

エ	イ	Ⅲ	I	エ
		時	黄	
9	5	間	色	2
ウ	四		い	a
	方	Ⅳ	花	ウ
10	八	た	を	b
ア	方	た	咲	イ
		た	かせ	c
11	6	1	せた	エ
手	ア	週		d
		間		ア
	7	程	Ⅱ	
	ウ	度	空	
			間	

13 9 5 1 三

むら	朗報	売買	放
がり			つ
14	10	6	た
まい	清潔	許	た
きよ		した	た
15	11	7	た
へい	た	保管	割
い	と		引
	と	8	
	ぶ	護衛	損
	12		
	もう		
	ける		

19 15

イ	ア
20	16
二十二	エ
	17
	ア
	18
	エ